

臨床現場で役立つ



便秘のタイプ別 下剤の上手な使い方

佐々木みのり（大阪肛門科診療所副院長）

本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続

1. 便秘とは便を「秘める」こと ————— p2
2. 「出口（直腸・肛門）の便秘」治療の解説 ————— p4
3. 「おなか（大腸）の便秘」に使われる下剤の解説 ————— p8
4. 下剤を用いた「おなか（大腸）の便秘」治療の解説 ————— p13
5. 便秘治療の有害事象 ————— p15

▶HTML 版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

👉 1. 便秘とは便を「秘める」こと

……と解釈することを提唱する

- ・決して便が「出ない」ことではない。
- ・毎日排便があっても、直腸・肛門に便が残っていれば便秘である。
(スッキリ出ていない状態も便秘と捉える)

……と考える。

以下、この考えに則って解説する。

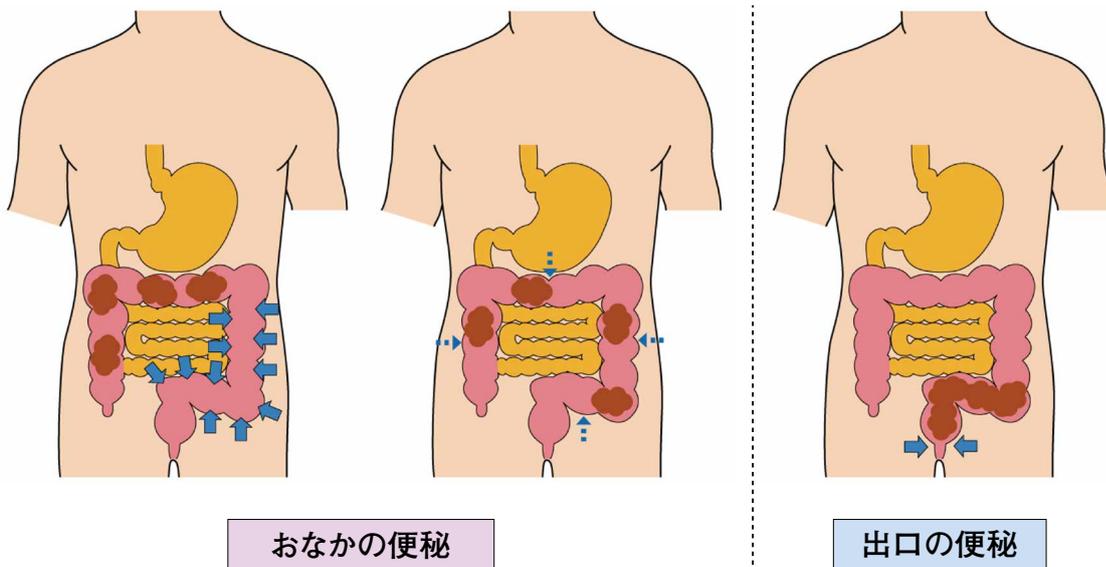
どこに便が停滞しているかで分類すると
便秘のタイプはシンプルに2つ

おなか(大腸)の便秘

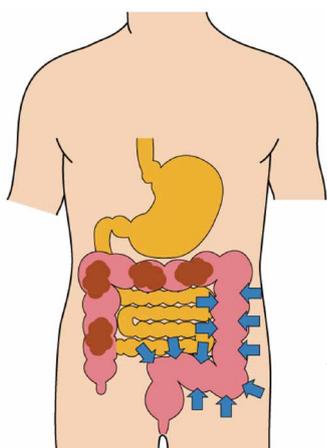
出口(直腸・肛門)の便秘

便が溜まっているのはどっち?
おなか? 出口?
あるいは両方?

便秘は部位別で考える

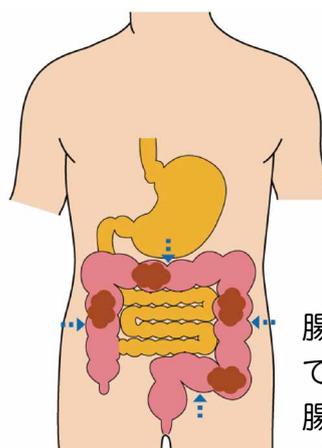


「おなか(大腸)の便秘」のうち代表的なもの



けいれん性便秘

ストレス等が原因で自律神経が過度に緊張することによって大腸がけいれんし、便の通過が障害されることによって生じる便秘



弛緩性便秘

腸管の緊張がゆるんで蠕動運動が低下し、腸内に便が長く停滞することによって生じる便秘

注：慢性便秘症診療ガイドライン2017(南江堂)においては、けいれん性便秘、弛緩性便秘という表記は用いられていないが、臨床現場においては用いられることが多いため、あえて取り上げた

「おなか(大腸)」と「出口(直腸・肛門)」の役割の違いを理解する

大腸は便の「製造」と「運搬」

直腸・肛門は便の「排泄」

うまくいっていないのは どちら?
あるいは 両方?

部位別 便秘治療

おなか(大腸)の便秘

(大腸に便が停滞)



内服下剤

出口(直腸・肛門)の便秘

(直腸・肛門で便が停滞)

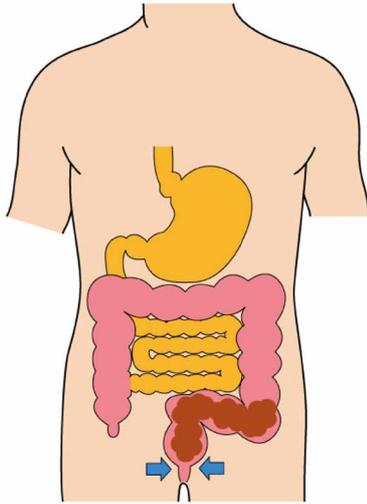


新レシカルボン® 坐剤

グリセリン浣腸

患者が「便が出ない」と訴えたときにすぐに内服下剤を処方しない

便が出口（直腸・肛門）まで下りてきているかもしれない。



直腸・肛門に便が充満しているにもかかわらず便意を感じない、あるいは便意はあるがトイレでいきんでも便が出ないという症例は意外と多い

便秘の診断で最初に行うべき検査は直腸指診 (直腸内が硬い便でパンパンのときはまずは摘便)

便に触れる
指に便が付着している



第一選択

新レシカルボン® 坐剤

第二選択

浣腸

便に触れない
かつ
2日以上排便がない
腹部膨満等の腹部症状あり



内服下剤

まずは

👉 2. 「出口（直腸・肛門）の便秘」治療の解説をします

出口（直腸・肛門）の便秘治療

新レシカルボン® 坐剤

第一選択薬。浣腸よりも安全に使用できる。